

## 平成24年度 事業報告

### 総括

平成24年4月、新たに一般社団法人日本臨床衛生検査技師会となり、新組織として事業がスタートした。前執行部は「新法人誕生のために整備した各種事項の実践を行う年度」との考えで、準則主義に基づいた執行体制の構築を中心に作業を進めた。特に定款や諸規定の内容に変更が加えられ、当該年度の事業計画からは、総会は年1回、理事会は年4回と少なくなったが、会長・執行理事を中心とする強力な指導による組織運営を目指したものである。

5月26日開催の定時総会では、会長及び執行理事など大幅な役員交代が行われ、世代交代を視野に入れた新たな執行体制の下に事業を遂行することとなった。また、会長候補者選出選挙を通じて、多くの会員から期待された改革を進めるとともに、既存の事業継続を円滑に図るため、各種委員会を活用した事業展開を実施した。さらには、長年の懸案事項などの処理に当たり、新時代に向けての足掛かりを作る年度となった。

具体的な取り組みとして、定款・諸規程で定められた執行理事会議下にある定例・常設委員会とは別に、総務、渉外、学術3部門の業務執行の円滑化を念頭にした総務渉外委員会、学術委員会を設け、更に検査値標準化委員会や利益相反委員会も開設した。また、当会の新たな方向性を確立するため、未来構想策定に関する委員会、学術組織再構築に関する委員会、チーム医療推進委員会、東日本大震災・原発事故支援に関する検討委員会、渉法問題対策推進委員会、報酬等審議委員会など、外部委員を含めた臨時委員会を複数創設した。組織運営はPDCA(計画・実行・評価・改善)サイクルを基本姿勢とし、各委員会ではそれぞれ多面的・多角的な視点・視野・視座から慎重に審議し、各々答申書や報告書を短時間で取りまとめ提出していただいた。

特筆すべき各種事業としては、総務関係で定例的・継続事業の他に会員への迅速な情報を提供するため、会報JAMTの増刊や日臨技ブログを創設した。また、会務の執行状況を役員に正確に伝えるための情勢報告会や、関係諸団体との連携を深めるための日臨技賀詞交歓会を初めて開催した。国際学术交流の面でも、IFBLS国際学会の日本招致など、新たな事業展開を見いだした。

学術関係では、日臨技研修会事業としての政策的研修会や、支部毎に開催した輸血と感染症に関する研修会、旧地区学会から移行した「日臨技支部学会」などが実施された。いずれも、新法人移行後初の取り組みでありながら、運営手順を確かめつつ、役員をはじめとする多くの会員の協力を得て成功裏に実施することができた。

渉外関係では、頓挫していた東日本大震災や原発事故災害の復興事業に関する後処理を行った。また長年の懸案事項であった臨床検査振興協議会やチーム医療推進協議会に加盟した。厚生労働省との折衝も質・量ともに充実させ、臨床検査業界や医療界における孤立状態から脱却することができた。今後は当会の主体性を維持しつつ、連携・協調を探る対外戦略が重要となる。

当会は常に学術と渉外の両輪で進む職能団体であることを基本に、47都道府県技師会との連携を強化し、5万人の会員が結束することにより諸案件を解決できると考える。

### 検査及び検査技師の実態調査に関すること

## 1 調査の実態調査

来年度診療報酬改正及び業務認証に関連して以下の調査を行った。

- 1) 臨床検査の適正評価に係る調査
- 2) チーム医療に関わる業務認証調査
- 3) 造血器腫瘍細胞抗原検査のコスト調査
- 4) 検体検査管理加算の調査

## 関係省庁との連携に関すること

### 2 関係省庁との連携

チーム医療の推進とも連動したグレーゾーンにおける業務認証に鑑みても、例年よりも活発に以下に示した内容に関して対応した。

- 1) 厚労省保険局医事課長面談
- 2) 厚労省科研費申請
- 3) 臨床検査技師による血圧測定に関する厚生労働省への疑義照会及び回答の受領
- 4) 厚労省チーム医療推進事業への参画
- 5) 看護業務検討ワーキンググループへの参加
- 6) 医療行為分類案への意見書提出
- 7) 厚労省通知のHP掲載
- 8) 厚労省医政局長 味覚検査・嗅覚検査の生理機能検査への追加要望書提出
- 9) 厚労省委託事業「平成24年度血液製剤使用実績調査」への協力

## 内外の関係団体との連携に関すること

### 3 日韓代表者会議の開催

- 1) 平成24年度第1回日韓代表者会議は、平成24年6月8日（土）ホテルグリーンパーク 津において開催した。日韓協定に基づき、代表団3名および交流功労者表彰1名を招聘した。
- 2) 平成24年度第2回日韓代表者会議および第50回大韓臨床病理士学会大会が、平成24年6月27日（水）～30日（土）韓国・ソウル市において開催された。この会議に、会長宮島、副会長松本、執行理事坂西および交流功労者被表彰者として才藤前副会長を派遣した。また、第50回記念大会であるため、韓国側からの要請を受け、理事・支部長など総勢15名を派遣した。また、第2回日韓交流功労者会議に早田・岩田・今村各交流功労者を派遣した。

### 4 関連団体への協力(JICA、JIMTEF)

- 1) 平成25年2月13日(水)に開催されたJICA臨床検査技術研修に会長宮島を派遣した。
- 2) 平成25年3月14日(木)に開催されたJICA臨床検査技術研修アクションプラン発表/評価会/閉講式に会長宮島を派遣した。

### 5 IFBLSへの対応

平成24年8月18日(土)～22日(水)にドイツ・ベルリンで開催された「第30回世界医学検査(IFBLS)学会」に会長宮島、常務理事下田、上原、山本、両執行理事を派遣した。2016年IFBLS学会開催地に日本をはじめ3ヶ国が立候補したが、審議の結果、日本での開催に決定した。また、理事小松が2013、2014年のIFBLS会長に就任した。

## 6 AAMLSへの対応

- 1) 平成24年6月29(金)に韓国・ソウルで開催された「第9回AAMLS理事会」へ小崎AAMLS理事を派遣した。
- 2) 平成24年11月29(土)にフィリピン・マニラで開催された「第10回AAMLS理事会」へ小崎理事の代理として理事小松を派遣した。

## 医療関連法規・制度に関すること

### 7 厚生労働省への折衝

継続的な折衝が停滞していた以下に対応し、進捗・回答を得た。

- 1) 臨床検査技師による耳鼻咽喉科領域の検査として「味覚検査」および「嗅覚検査(静脈性嗅覚検査を除く)」を加えることを日本耳鼻咽喉科学会と協調して要望書を提出した。
- 2) 自動血圧計による血圧測定については、疑義照会により実施に問題のないことを確認し、その結果を会員に周知するとともに、各医療団体にも周知・要請した。

### 8 診療報酬対策

診療報酬対策委員会を継続して設置し、実態調査を行い、この結果に鑑みた日臨技独自の要望書の作成を行った。また下記の臨床検査振興協議会との協働も行った。そして、これまでの2年単位の取り組みではなく、法改正なども視野に入れ、長期・継続的に取り組みより根拠ある裏付けデータを遅滞なく提出できる土台作りに着手した。

### 9 臨床検査振興協議会・WG会議への参画

新たに加わった臨床検査振興協議会の要望書にも上記の日臨技独自の調査結果を反映・連動するためにも、理事会、各種委員会・WGに以下のとおり役員及び診療報酬対策委員を派遣した。

- 1) 理事会 副理事長 : 会長宮島、理事: 副会長松本、常務理事下田、萩原、津田の両執行理事
- 2) 定款改定委員会 : 常務理事下田
- 3) 医療政策委員会 : WG-A 椎津診療報酬対策委員長、WG-B 同 林副委員長、WG-C 同 武井委員、WG-D 同委員 理事齊藤

これにより、臨床検査振興協議会から内保連を通じた要望書の提出の道を開いた。

### 10 チーム医療推進協議会への参画

長年の懸案であったチーム医療推進協議会へ加盟し以下のとおり派遣し参画した。

- 1) 代表者会議 : 会長 宮島、副会長 松本、常務理事 下田
- 2) 広報委員会 : 執行理事 上原

## 認定制度に関すること

## 11 臨床検査技師認定機構

同機構で実施されている認定については引き続き関連学会との連携を密にし、各担当理事を派遣し情報収集と適正な運用をおこなった。

- 1) 認定輸血検査技師制度
- 2) 認定臨床微生物検査技師制度
- 3) 日本サイトメトリー技術者認定制度
- 4) 認定血液検査技師制度

## 12 日臨技認定センター (Japanese Association of Medical Technologists Accreditation Center)

認定センターを組織する中央委員会、認定協議会、各認定審議会を確立し、付属するワーキンググループも方針に沿った活動をおこなった。

平成24年度の各認定試験は下記の通りである。

- 1) 認定一般検査技師制度  
日 程：平成24年10月8日（月）  
会 場：日本青年館  
受験者：99名
- 2) 認定心電検査技師制度  
日 程：平成24年11月11日（日）  
会 場：日本教育会館  
受験者：187名
- 3) 認定臨床染色体・遺伝子検査技師制度  
日 程：平成24年11月11日（日）  
会 場：日本臨床衛生検査技師会館  
受験者：臨床染色体 5名 遺伝子 4名

### 4) 更新申請

以下の認定検査技師の更新申請を受理し、審査した。

- |                  |            |                     |
|------------------|------------|---------------------|
| (1)認定一般検査技師      | 更新対象者 80名  | ： 申請者 66名、更新延免申請者2名 |
| (2)認定心電検査技師      | 更新対象者 117名 | ： 申請者 95名           |
| (3)認定臨床染色体遺伝子検査師 | 更新対象者 2名   | ： 申請者 2名            |

### 5) 認定センター中央委員会による試験合否、更新可否判定

各認定検査技師制度において60%以上の正答を得た者を合格とした。

また、審査の結果、更新申請・更新延免申請者は全員を承認した。

- (1)認定一般検査技師  
受験者99名中43名（合格率43.4%）
- (2)認定心電検査技師  
受験者187名中127名（合格率67.9%）
- (3)認定臨床染色体遺伝子検査師  
染色体検査分野受験者5名中3名（合格率60.0%）  
遺伝子検査分野受験者4名中2名（合格率50.0%）  
各領域の認定期間は平成25年4月1日から平成30年3月31日までの5年間

#### 6) 認定総合監理検査技師制度

認定管理検査技師コースに47名の申し込みがあった。集合講習を以下の日程で開催することとし、開始した。

第1回：平成24年12月15日（土）・16日（日） 出席者43名

第2回：平成25年 4月20日（土）・21日（日）

第3回：平成25年 8月17日（土）・18日（日）

### 13 認定制度対策研修会

認定一般検査技師制度、認定心電技師制度、認定臨床染色体・遺伝子取得者を対象とした研修会を各地区・都道府県の申請により以下のとおり開催した。

#### 1) 認定一般検査技師研修会

平成24年 9月 関東甲信地区技師会、東京都技師会

平成24年10月 東北地区技師会、岐阜県技師会

平成24年11月 日臨技認定センター主催、佐賀県技師会

平成24年12月 長崎県技師会

平成25年 1月 東京都技師会

平成25年 2月 中部圏支部、関西支部、福島県技師会、

平成25年 3月 九州支部、四国地区技師会

#### 2) 認定心電技師研修会

平成24年10月 日臨技認定センター主催

平成24年12月 新潟県技師会

平成25年1月 埼玉県技師会

#### 3) 第61回日本医学検査学会開催前日、認定のためのスキルアップ研修会を、学会担当の三重県が主催して開催した。

## 学術的な研究、調査及び研修に関すること

### 14 日臨技研修会事業の推進

日臨技研修会は国民の視点に立ち、臨床検査技師として必要とされる政策的研修会と位置づけこれを実施した。

#### 1) 日臨技による直接運営の研修会

##### (1) 形態検査から診る臓器別疾患の解明（第1弾－腎・泌尿器疾患）

～病理・細胞・血液・一般検査から腎・泌尿器疾患へのアプローチ～

開催日程：平成24年5月12日(土)

開催場所：函館国際ホテル（北海道）

参加者数：87名（募集－200名）

##### (2) 輸血療法における安全管理体制の強化

～輸血療法における臨床検査技師の使命～輸血安全管理研修会

開催日程：平成24年7月29日(日)

開催場所：ラフレさいたま（埼玉県）

参加者数：320名（募集－400名）

(3) 感染症対策に関する最近の話題と時間外の細菌検査

～ 感染症対策における臨床検査技師の使命～感染症に関する研修会

開催日程：平成24年9月1日(土)

開催場所：しずぎんホール ユーフォニア（静岡県）

参加者数：76名（募集－300名）

(4) 医療安全管理者研修会

～ 医療安全管理者としての臨床検査技師の役割 ～医療安全管理者研修会)

開催日程：平成24年11月10日(土)

開催場所：TKPガーデンシティ博多（福岡県）

参加者数：61名（募集－200名）

(5) 臨床検査技師臨地実習指導者教育研修

～ 有意義な臨地実習とするための指導者の役割と指導ポイント ～

開催日程：平成24年12月1日(土)・2日(日)

開催場所：広島市まちづくり市民交流プラザ（広島県）

参加者数：28名（募集－80名）

(6) 臨床検査部門総合管理者研修会

～ 臨床検査部門の管理・運営のための指導者の役割と指導ポイント ～

開催日程：平成25年2月2日(土)

開催場所：和歌山ビッグ愛 大ホール和歌山市（和歌山県）

参加者数：61名（募集－200名）

2) 各支部運営で行った研修会

(1) 輸血に関する研修会（各支部で募集－60名）

①北日本支部

開催日程：平成24年11月17日(土)～18日(日)

開催場所：福島県立医科大学

参加者数：60名（募集－60名）

②関甲信支部

開催日程：平成24年10月13日（土）～14日（日）

開催場所：上尾中央総合病院

参加者数：54名（募集－60名）

③首都圏支部

開催日程：平成25年1月26日（土）～27日（日）

開催場所：千葉大学医学部 組織実験室

参加者数：29名（募集－60名）

④中部圏支部

開催日程：平成24年9月8日（土）～9日（日）

開催場所：名古屋市立大学病院及び名古屋市立大学医学部

参加者数：58名（募集－60名）

⑤関西支部

開催日程：平成24年10月13日（土）～14日（日）

開催場所：大阪市立大学医学部

参加者数：60名（募集－60名）

⑥中四国支部

開催日程：平成24年9月8日（土）～9日（日）

開催場所：香川大学医学部

参加者数：47名（募集－60名）

- ⑦九州支部 開催日程：平成24年11月10日（土）～11日（日）  
開催場所：鹿児島大学医学部  
参加者数：35名（募集－60名）
- (2) 感染症に関する研修会（各支部で募集－60名）
- ①北日本支部 開催日程：平成25年2月23日（土）～24日（日）  
開催場所：日本医科歯科大学新潟生命学部  
参加者数：33名（募集－60名）
- ②関甲信支部 開催日程：平成25年1月12日（土）～13日（日）  
開催場所：筑波大学 医学専門学群  
参加者数：17名（募集－60名）
- ③中部圏支部 開催日程：平成25年1月26日（土）～27日（日）  
開催場所：静岡市立静岡病院 西館12階 講堂  
参加者数：40名（募集－60名）
- ④関西支部 開催日程：平成25年2月16日（土）～17日（日）  
開催場所：神戸大学 医学部 楠キャンパス  
参加者数：23名（募集－60名）
- ⑤中四国支部 開催日程：平成25年1月26日（土）～27日（日）  
開催場所：広島国際大学保健医療学部  
参加者数：49名（募集－60名）
- ⑥九州支部 開催日程：平成25年3月9日（土）～10日（日）  
開催場所：熊本保健科学大学  
参加者数：42名（募集－60名）

## 会誌等の編集・発行に関すること

### 15 会誌「医学検査」・会報JAMTの発行

発行を年6回とし、第61回日本医学検査学会の抄録部分をDVD化した学会特集号とした。会報JAMTを同封冊とし効率化を図るとともに、ホームページにも会報をその都度アップし、リアルタイムな情報をいち早く会員へ伝達した。

### 16 ライブラリー等の出版

必要に応じ増刷を行った。また、「一般技術教本」を新たに平成24年5月に発刊した。

## 教育制度に関すること

### 17 学術組織の再構築

学術組織再構築に関する検討委員会を立ち上げ、委員会を4回開催するとともに、6名の協力委員からもメールにて意見を徴集し、答申書が作成され、平成25年3月14日に受領した。

## 関連学会に関すること

## 18 関連学会との連携

- 1) 平成24年11月29日～12月2日に開催された第59回日本臨床検査医学会学術集会にて共催シンポジウム「臨床検査技師がチーム医療に果たす役割」を企画・実施した。
- 2) 平成25年1月5日、同年3月22日に日臨技 - JSLM合同未来構想ワーキンググループに副会長松本、執行理事坂西を派遣した。
- 3) 平成25年1月18日に日臨技 - 日本臨床検査教育協議会合同会議に副会長松本、執行理事坂西を派遣した。
- 4) 当会以外に日本糖尿病学会, 日本臨床検査医学会, 日本臨床化学会, 日本臨床検査標準化協議会, 日本臨床検査薬協会で開催されるHbA1c適正運用機構運営会議に永峰康孝委員を派遣し、2回の会議に出席した。

## 精度管理事業に関すること

### 19 臨床検査精度管理調査の推進

検体検査管理加算取得に向け、平成21年度に“微生物塗抹検査”、“輸血A”、“ヘモグロビンA1c”の3項目を「基本項目」に追加し、『当会が推奨する参加項目』と位置付けたが、参加施設の実施項目の参加を可能にするため、微生物と輸血をA、Bそれぞれ単独で申し込みできるように参加番号を設定し、合計11参加番号で実施した。

- 1) 参加施設数は3,680施設・3,712件であり、23年度より161施設増加した。本年度は、Webを使用した新システムでの実施2年目であり、Webでの申し込み・回答が定着したと考えられる。
- 2) 平成24年8月末に施設別報告書(PDF)をWebで公開し、平成25年2月に本年度報告書を参加施設に送付した。
- 3) 昨年に引き続き、日臨技精度管理調査総合報告会を平成25年3月2日(土)に「よみうりホール(東京都千代田区)」で開催し、参加者数は565名であった。

## 日本医学検査学会等に関すること

### 20 日本医学検査学会

- 1) 第61回日本医学検査学会

第61回日本医学検査学会は平成24年6月9日(土)・10日(日)の両日、三重県総合文化センターとメッセウイング・みえを会場にメインテーマを「命の重み・重なる技術・重ねる重い」、サブテーマを「匠の技伝承と社会的貢献を目指して」として開催した。

【入場者数】 総数 4,044名

有料入場者数：3,562名 無料入場者数：482名

展示発表会は、96社の申し込みがあり、延べ約16,408名の入場者数で賑わった。

- 2) 学会組織委員会・学会運営部会

学会組織委員会を6月、12月の2回、第62回日本医学検査学会運営部会を6月、12月、2月の3回、第63回日本医学検査学会運営部会を6月、2月の2回開催した。



3) 第64回日本医学検査学会立候補届け

第64回日本医学検査学会の立候補届けが九州支部の佐賀県技師会からあり、学会会場は福岡国際会議場、福岡サンパレスと福岡国際センターの予定で理事会へ提案し承認された。

4) 平成24年度各支部学会を開催した。

(1) 北日本支部医学検査学会(第1回)

会 期：平成24年10月20日（土）・21日（日）

会 場：コラッセ福島（福島県福島市）

学会長：大花 昇

参加者：816名

(2) 首都圏支部(第1回)・関甲信支部医学検査学会(第49回)

会 期：平成24年11月3日（土）・4日（日）

会 場：ワークピア横浜、産業貿易センター（神奈川県横浜市）

学会長：斎藤 幸弘

参加者：1,160名

(3) 中部圏支部医学検査学会(第51回)

会 期：平成24年11月3日（土）・4日（日）

会 場：セラミックパークMINO（岐阜県多治見市）

学会長：北村 顕

参加者：1,036名

(4) 関西支部医学検査学会(第52回)

会 期：平成24年9月29日（土）・30日（日）

会 場：南紀白浜コバノイベイホテル（和歌山県白浜町）

学会長：玉置 達紀

参加者：975名

(5) 中四国支部医学検査学会(第45回)

会 期：平成24年11月3日(土)・4日(日)

会 場：岡山コンベンションセンター（岡山県岡山市）

学会長：岡田 健

参加者：1,925名

(6) 九州支部医学検査学会(第47回)

会 期：平成24年11月17日(土)・18日(日)

会 場：宮崎観光ホテル（宮崎県宮崎市）

学会長：津曲 洋明

参加者：1,023名

## 職業紹介事業に関すること

### 21 無料職業紹介

- 1) 職業紹介協力者を含めて昨年度に引き続き事業の継続推進を図った。平成24年4月から25年2月までの採用決定者は9名であった。

2) 紹介事業業務軽減及び利用者の利便性を考慮し、ホームページでの運用システムを構築した。

## 会員の共済(福利厚生)に関すること

### 22 共済事業の推進

1) 東日本大震災、台風4号、九州北部豪雨による被災会員に共済規程により見舞金を支給した。

①九州北部豪雨による被災

Aランク：会員の死亡、家屋の流失・倒壊・全壊・居住不能の半壊・床上浸水

見舞金10万円、申請者 4名

②東日本大震災・台風4号 Cランク：住居の一部損壊

見舞金 2万円、申請者 6名

2) 平成25年度会費減免の申請が4名から提出され対応した。

3) 平成24年度会費減免は 558名であった。

4) 昨年度に引き続き、全員加入（年会費自動振替承認会員限定）として臨床検査技師賠償責任保険と会務中のケガへの補償（傷害保険）を継続。ポスターやリーフレットを作成し、会員の勤務先に配付し啓発を図った。この一年間でどちらの保険についても請求事例が出ている。

臨床検査技師賠償責任保険の補償内容は昨年度と同様で、

対人事故：1事故1億円 保険期間中3億円

対物事故：1事故・保険期間中20万円

人格権侵害：1名・1事故・保険期間中100万円

初期対応費用：500万円（うち見舞金は3万円限度）

会務中のケガへの補償は、昨年度の加入実績により割引率が高くなったため、補償額が以下のとおりに増額された。

死亡・後遺障害保険金：110万円（昨年度同様）

入院保険金日額：2,100円（昨年度：1,500円）

通院保険金日額：1,400円（昨年度：1,000円）

手術保険金：入院日額の10、20、または40倍である。

5) 日臨技リンクスについて

当会会員並びにその家族の医療・傷害・がん・個人賠償責任をカバーする「日臨技リンクス」は、平成23年6月からスタートした全員加入保険の影響を受け、割引率がアップしたため加入しやすい保険料体系となった。この内容についてはホームページやJAMT等を通じて広報し、加入促進を図った。

6) 日臨技パートナーについて

平成23年6月導入の全員加入保険により、本制度の一部分は全員加入保険に取って代わったが、全員加入保険ではカバーできない部分（施設を借りる研修等での施設への賠償責任、会員の家族が参加する行事における家族のケガの補償等）については、引き続き本制度が有効なため、研修会、レクリエーション等に参加する会員に対して“安心”を提供するべく加入促進を図った。

7) JAMT共済ネット

当会ホームページに「JAMT共済ネット」（保険・各種会員割引制度・生活情報サービス）を掲載し会員福利厚生制度の普及推進を行った。

各種割引制度の内容は、

- (1) 集団抜自動車保険(通常の掛け金より安い保険料)
  - (2) 自動車購入紹介制度(有利な条件での自動車購入が可能)
  - (3) バラエティーローン(融資制度)
  - (4) 住宅購入のアドバイス(積水ハウス)
- 8) 会員のための各種相談窓口の設置  
臨床検査業務、医療事故やヒヤリハット、労務問題、その他プライベートにおける税務問題や心の悩み等、会員が無料で相談できる窓口を設置し、リーフレット等を通じて会員に告知した。

## 表彰に関すること

### 23 表彰事業の推進

- 1) 平成24年度の各種表彰は、平成24年度定時総会・第61回日本医学検査学会表彰式において執り行った。永年職務精励者表彰1,030名をはじめ、会長賞 1名、功労賞 1名、優秀論文賞 3編、優秀演題賞 4編、特別奨励賞 3編であった。
- 2) 平成25年の各賞被表彰候補者の推薦を依頼した。推薦依頼対象者は以下のとおりである。尚、決定は表彰委員会の審査に基づき決定表彰は平成25年度に執り行うこととなる。
  - (1) 日臨技有功賞  
会長賞・功労賞 : 支部長、日臨技理事  
特別賞 : 日臨技会長
  - (2) 日臨技学術奨励賞  
優秀論文賞 : 都道府県技師会長、支部長、日臨技理事  
医学検査査読者および自薦  
優秀演題賞 : 座長、学会長、学会査読者、日臨技理事および自薦  
特別奨励賞 : 座長、学会長、学会査読者、都道府県技師会長、支部長、日臨技理事、医学検査編集者、医学検査査読者および自薦
- 3) その他、結核研究奨励賞被表彰候補者を選考し同審査委員会へ推薦した。

## 医療安全対策に関すること

### 24 医療安全対策の推進

医療安全に対する意識の向上と臨床検査技師としての職責の認識を図るため、昨年に引き続き「医療安全管理者研修会」を開催した。

また、医療安全対策の普及・啓発活動の一環として、厚労省の「医療安全推進週間」(毎年度11月15日を含む1週間)についても会員へ周知した。

## 検査値標準化に関すること

### 25 臨床検査データ標準化事業の推進

臨床検査室本来の評価は、良質で精度の高い検査データを24時間迅速に提供することであり、都道

府県技師会の協力のもと、精度管理調査、標準化事業を通じて検査データの質と精度向上に積極的に取り組んでいる。

- 1) 本年度は、全国47都道府県技師会施設と登録衛生検査所の合計165基幹施設の参加を得て、データ標準化の実践と継続を推進した。
- 2) 第61回日本医学検査学会場において、当会の精度管理・データ標準化事業システム（JAMTQC）と、このシステムを使用する都道府県サーベイの実施方法の説明コーナーを設置、実施した。
- 3) 平成24年度日臨技臨床検査データ標準化事業・全国代表者会議を5月12日（土）に日臨技会館で開催し、平成23年度事業報告を行い、平成24年度事業計画を策定した。JCCLSの基準範囲共用化委員会に委員を派遣し、パブリックコメント発行に向けた作業に参加した。  
また、第61回学会時に引き続き、精度管理事業・データ標準化事業システム（JAMTQC）の説明を行い、各都道府県で幅広く使用してもらうよう広報した。
- 4) 本年度の精度保証施設認証審査への申請、更新申請施設数は368施設であり、このうち365施設を承認し、平成25年4月1日から2年間有効の認証書を4月末に発送した。

## 26 日本臨床検査標準協議会（JCCLS）事業への参画

日本臨床検査標準協議会へ当会から役員を派遣した。また、ISO/TC212国内検討委員会WG1、2、4、尿検査標準化委員会、標準採血法検討委員会、認証委員会、標準物質トレーサビリティ認証委員会、基準範囲共用化委員会へ委員を派遣し、事業に参画した。

## 27 日本医師会（JMA）精度管理調査事業への参画

日本医師会臨床検査精度管理検討委員会へ委員を派遣し、専門職種立場から協力した。

## 国民の健康増進に関すること

### 28 原発事故被害への支援

福島県を中心に実施している放射線県民健康調査活動の後方支援として、甲状腺エコー検査に携われる検査技師育成への支援を念頭に事業の計画・企画・立案をした。

### 29 パイロット事業の街角ラボ

香川県臨床検査技師会において実施している街角ラボに関して、改めて日臨技としてのパイロット事業としては完了していることを確認した。ただし、地域医療の促進や臨床検査の普及啓発に発展的に取り組むための礎となった。内容を改変して、次年度の検査健康展へ発展的に応用していくこととした。

### 30 国民を対象とした事業

国民を対象とした臨床検査の普及啓発ならびに国民に対する衛生思想の普及啓発を目的に各都道府県の協力を仰ぎ、次の事業を行った。

- (1) 乳がん撲滅啓発活動：9 ～ 10月
- (2) 青少年のためのSTI予防啓発活動：通年

### 31 マタニティー&ベビーフェスタ2012

マタニティーフィットネス協会主催のマタニティー&ベビーフェスタ2012へ参画し、妊婦の胎児4Dエコー体験を引き続き支援した。

超音波検査を担当する技師は首都圏の技師会からボランティアを募った。

また、今回からは臨床検査（ヘルスチェック）コーナーを併設し神奈川県技師会の協力を全面的に受け、動脈硬化・指尖ヘモグロビン濃度測定・指尖酸素飽和度測定等を行い盛会に開催された。

## 公衆衛生の向上に関すること

### 32 資質の向上による公衆衛生の向上への寄与

上記各種事業をもって会員はじめ臨床検査技師の知識・技術の研鑽を行ってきた。我々臨床検査技師の資質の向上は、すなわち国民の公衆衛生の向上へ資するものである。

## その他この法人の目的を達成するために必要な事業の実施に関すること

### 33 新規委員会の設置・創設

- 1) 定款・諸規程で定められた執行理事会議下にある定例・常設委員会とは別に、総務、渉外、學術3部門の業務執行の円滑化を念頭にした総務渉外委員会、學術委員会を設けた。
- 2) 検査値標準化委員会及び利益相反委員会を開設した。
- 3) 当会の新たな方向性を確立するため、未来構想策定に関する委員会、學術組織再構築に関する委員会、チーム医療推進委員会、東日本大震災・原発事故支援に関する検討委員会、渉法問題対策推進委員会、報酬等審議委員会など、外部委員を含めた臨時委員会を複数創設した。

### 34 ブログの創設

定例的・継続事業の他に会員への迅速な情報を提供するため、日臨技ブログを創設した。

### 35 各種会議の開催

以下の各種会議を開催した。

- 1) 平成24年度定時総会  
期日：平成23年5月26日（土）  
会場：大森東急イン
- 2) 全国幹事連絡会議  
期日：平成25年1月26日（土）  
会場：当会会議室
- 3) 定例会議
  - ① 定例理事会(7回)
  - ② 執行理事会議(11回)
  - ③ 臨時執行理事会議(1回)
- 4) 情勢報告会(2回)
- 5) 総務・渉外委員会(7回)

〈総務関係〉

- ① 人事委員会(7回)
- ② 表彰委員会(1回)
- ③ 予算委員会(2回)
- ④ 倫理委員会(1回)
- ⑤ 役員候補者選出委員会(3回)
- ⑥ 利益相反委員会(2回)会(1回)
- ⑦ 共済制度委員会(1回)
- ⑧ 報酬等審議委員会(3回)
- ⑨ 東日本大震災・原発事故支援に関する検討委員会(1回)
- ⑩ 未来構想策定に関する検討委員会(4回)
- ⑪ 支部長連絡会議(5回)
- ⑫ 日韓代表者会議(2回)

〈渉外関係〉

- ① 診療報酬対策委員会 (3回)
- ② 渉法問題対策委員会 (3回)
- ③ チーム医療推進検討委員会(6回)
- ④ 医療安全対策委員会(2回)

6) 学術委員会 (6回)

〈学術関係〉

- ① 学術組織再構築に関する検討委員会 (4回)
- ② 生涯教育・研修制度委員会 (1回)
- ③ 広報委員会(2回)
- ④ 検査値標準化委員会(4回)
- ⑤ 精度保証認証委員会 (5回)
- ⑥ 精度管理調査委員会(3回)
- ⑦ 精度管理調査委員会 遺伝子WG会議(1回)
- ⑧ 精度管理調査委員会 病理WG会議(1回)
- ⑥ 精度管理調査委員会 臨床化学WG会議(2回)
- ⑦ 精度管理調査委員会 免疫血清WG会議(1回)
- ⑧ 精度管理調査委員会 輸血WG会議(1回)
- ⑨ 精度管理調査委員会 細胞WG会議(1回)
- ⑩ 精度管理調査委員会 生理WG会議(1回)
- ⑪ 精度管理調査委員会 血液WG会議(2回)
- ⑫ 精度管理調査委員会 微生物WG会議(1回)
- ⑬ データ標準化事業全国代表担当者会議(1回)
- ⑭ 学会組織委員会(2回)
- ⑮ 第61回日本医学検査学会運営部会(3回)
- ⑯ 第62回日本医学検査学会運営部会(2回)
- ⑰ 第63回日本医学検査学会運営部会(2回)

〈認定センター〉

- ① 日臨技中央認定委員会(1回)
- ② 日臨技認定センター認定制度協議会(1回)
- ③ 認定心電検査技師試験WG会議(2回)
- ④ 認定一般検査技師試験WG会議(2回)
- ⑤ 認定染色体遺伝子検査師試験WG会議回
- ⑥ 認定一般検査技師制度研修会WG会議 (1回)
- ⑦ 認定心電検査技師資格更新・研修会WG会議(1回)
- ⑧ 認定一般検査技師制度審議会(1回)
- ⑨ 認定心電検査技師制度審議会(1回)
- ⑩ 認定染色体遺伝子検査師制度審議会(1回)
- ⑪ 認定管理検査技師制度審議会(1回)

### 36 支部内連絡会議の開催

平成24年度支部内連絡会議を下記のとおり開催した。

- |               |             |      |
|---------------|-------------|------|
| 1) 北日本支部内連絡会議 | 平成25年10月19日 | 福島市  |
| 2) 関甲信支部内連絡会議 | 平成24年11月04日 | 横浜市  |
| 3) 中部圏支部内連絡会議 | 平成24年11月02日 | 多治見市 |
| 4) 関西支部内連絡会議  | 平成24年09月29日 | 和歌山市 |
| 5) 中四国支部内連絡会議 | 平成24年11月02日 | 岡山市  |
| 6) 九州支部内連絡会議  | 平成25年02月02日 | 福岡市  |

### 37 ホームページの活用

当会運営の透明性を確保するため、各種情報公開、広報、会告等の迅速伝達を図るべく逐次整備を行った。

さらに、会員がウェブ上で登録や支払い、発行が行えるよう整備を行った。入退会手続き、日本医学検査学会事前登録（参加費納入）、会費請求書・領収書の発行は整備を完了した。

引き続き、日臨技主催の研修会への事前登録（参加費納入）、書籍購入（代金納入）なども整備を検討している。

### 38 広報活動の強化

各都道府県の「健康フェア」等に使用する目的で、都道府県技師会の依頼により臨床検査紹介の「リーフレット」並びに「検査のはなし」の配付を行った。

### 39 主務官庁への報告

以下の文書を内閣府へ提出した。

- 1) 「平成24年度事業計画書・予算書」
- 2) 「平成23年度事業報告書・決算書」

### 40 各種団体への派遣

以下の団体等に役員等を派遣した。

- 1) 日本医師会

- 2) 日本衛生検査所協会
- 3) 日本医療技術者団体連絡協議会
- 4) 医療関連サービス振興会
- 5) 日本臨床検査標準協議会 (JCCLS)
- 6) 臨床検査振興協議会
- 7) 日本臨床化学会
- 8) 日本臨床検査医学会
- 9) 独立行政法人産業技術総合研究所計量標準管理センター
- 10) 医療機器センター
- 11) 公益財団法人 結核予防会
- 12) 日本糖尿病学会
- 13) チーム医療推進協議会
- 14) 認定検査技師機構
- 15) 認定輸血検査技師制度協議会
- 16) 同 審議会
- 17) 認定臨床微生物検査技師制度協議会
- 18) 同 審議会
- 19) サイトメトリー技術者認定協議会
- 20) 同 審議会
- 20) 認定血液検査技師制度協議会
- 21) 同 審議会
- 22) 日本栄養療法推進協議会
- 23) 日本静脈経腸栄養学会
- 24) 公益財団法人日本適合性認定協会 (JAB)
- 25) 黒住医学研究財団

#### 41 監査

業務監査、会計監査を次の日程で受けた。

- 1)平成24年 4月13日、18日 平成23年度期末監査
- 2)平成24年10月22日 平成24年度中間監査

#### 42 会員数

平成25年2月10日現在の会員登録状況(JAMTIS)は、次のとおりである。

- ◇ 会員登録数 51083名 (前年同期 49,512名)
- ◇ 継続会員数 48,535名 (前年同期 47,346名)
- ◇ 新入会員数 2,548名 (前年同期 2,166名)

#### 43 第59回国家試験問題評価

平成25年2月20日に実施された臨床検査技師国家試験問題についてその評価を実施した。またその結果を報告書として平成25年2月27日に厚生労働省へ提出した。